



スコール事業部では、添加物などを一切使用しない安全で安心な製品を、一つひとつ心を込めて作り、販売しております。



スコールおすすめ商品

インターネットでのご注文はこちらから  
<http://www.patata33.com>



学園トマトケチャップ

●内容量/370g  
●●●●● **¥577** (小売価格)

¥5,664 (12本入1ケース価格)

学園製品 人気NO1! 「カロテン」と「リコピン」をいっしょに濃縮トマトをふんだんに使用した栄養価の高いこのケチャップ。独自のスパイス配合で仕上げたこだわりの商品です。



スコールオリジナルセットA

●●●● **¥4,597** (小売価格)

●学園100%ジュース ぶどう/1本  
●学園トマトケチャップ 2本  
●学園ジャム フルーベリー、いちじく、マーマレード、ぶどう/各1本

人気製品をセットしたおすすめギフト。お祝儀・ご贈答用にいかがでしょうか。

\*送料は別途がかかります。ご希望により、どの様にもお届けいたしますので、詳しくは下記のところまでおたずねください。

お問い合わせは

スコール事業部 まで TEL.019-636-4566 FAX.019-636-0890

岩手県盛岡市向中野才川2-3

平成20年度 盛岡スコール高等学校 募集要項

〈募集内容〉学科・定員 / 総合学科 男女200名 (科目選択の際 調理師免許取得は最大70名まで)

■ 第Ⅰ期募集

出願期間 平成20年1月8・9日  
選考日 平成20年1月15・16日  
選考方法 自己推薦書・中学校生活の記録・面接・課題作文  
合格発表 平成20年1月23日  
入学手続 平成20年2月1日まで  
出校手続日 平成20年2月17日

■ 第Ⅱ期募集

出願期間 平成20年1月15～29日  
選考日 平成20年2月1・2日  
選考方法 自己推薦書・中学校生活の記録・面接・課題作文  
合格発表 平成20年2月6日  
入学手続 平成20年3月21日まで  
出校手続日 平成20年3月21日

■ 学費

入学金 100,000円  
施設設備費 50,000円  
毎月授業料その他 35,000円

■ 寮費

入寮費 50,000円  
施設設備費 50,000円  
毎月寮費 58,000円

\*詳しくは 盛岡スコール高等学校事務局 (電話 019-636-0827)までお問い合わせください。



ΣΧΟΛΗ  
協力会報

NO.52 [平成19年12月]

発行  
スコール協力会  
〒020-0831  
岩手県盛岡市向中野才川2-3  
TEL.019-636-0827(代)  
FAX.019-636-0830  
E-mail: info@schole.jp  
http://www.schole.jp  
郵便口座02380-0-479



「岩手山」協力会員 岩澤・撮影

記念事業についての感謝と想い

学校法人スコール 理事長 毛利二郎

協力会の皆様、いつも暖かいご支援をいただきましてありがとうございます。

10年以上にわたった70周年記念事業も、盛南開発の進展状況にあわせていよいよ終盤を迎えようとしています。この間周辺の状況は大いに変わり、学園の周りの景色には殆ど昔の面影は残っておりません。こんなに変わってしまうものかと思われるほど変わりました。久しぶりに学校を訪ねられた方からは迷子になってしまったと必ず言われるほどの変わり様です。毎日学校に通っている私たち教職員や生徒・園児、父兄にはそのような変化の実感はありません。これが日常だと思いつつもうちに状況とは刻々と変化していくものなのでしょう。

さて、70周年記念事業として多くの皆様から暖かいご支援をいただき、合わせて記念募金にもご賛同をいただきまいましたこの事業も、残すところ正門周辺の整備とそれに伴う幼稚園園庭の拡張工事、並びに校舎南側部分への移転に伴うグラウンド・農場の整備という二点に絞られてまいりました。これら二つの工事が来年度中には終わる予定で、それ

がすめば当面の大きな工事は一段落となります。1996年(平成8年)文部科学省の委託事業によるパイロットモデル研究から始まったこのプロジェクトも大詰めです。本当に長い工事期間でしたが、お蔭様で何とかここまでやってこれましたこと心より感謝申し上げます。ありがとうございました。

1997年に特別教室棟を建て、翌1998年盛岡スコールと名前を変更、総合学科の高等学校として新たに出発した学園の教育改革も早10年あまりが経とうとしています。社会状況は外観の変化ばかりでなく、人々の考え方も実は大いに変わってきています。私達の学園が変化の激しい社会状況の中できちんとした使命を果たしているのか、何をする事によってその使命を果たすことができるのか、私達は常にそのことを念頭においていなければならないと思います。それはなかなか難しいことではありますが、このことはこれからの人である若い人たちに相手に仕事をしている学校関係者の最低のモラルであると思います。





## 原点に戻ろう

「生活即教育」を建学の精神に掲げている学園です。私は時代が変わろうと建学の精神は変わらないと思っております。生きることは学習であり学び続けることだということ、学び続けることが生きることであり、学びは楽しみであることを謳歌することだと思っています。幼稚園で標語として使っている、よく見る、よく聞く、よく考える、という言葉にその原点があるのでしょうか。しかし、これは決して幼児にのみ当てはまることではありません。子どもにも大人にもとても大切な人生に対する基本的な態度に関するものです。これは正によく情報を集めて適格な判断をするということに直結しています。

勉強をするということは、情報を集める、または集める方法を学ぶということとイコールです。本質的に他者と比較することとは関係がありません。無論評点化することとも馴染みません。ましてや序列化して優劣を競うということはまったく無意味なことです。よく見る、よく聞く、よく観察しよく情報を集め、よく考えて自分の考えをきちんと持つこと、自分の考えの基準をしっかりと確立することが大切です。

ただ人というものは他者と比較して優劣を競うということは、自尊心に関して言えば、ちょっと嬉しいと思われているので、優劣を付けることも必要だと誤解されてしまっています。人

間は一人の固体として存在を認められることは大切なことなのでその点で混同されがちですが、要するに他者と比べてどうだということではなく、あなた自身の存在がすべてであり、あなた自身が昨日に比べて少し元気になり、そして私にとってあなたの存在がありがたい、であればそれでいいということではないでしょうか。この関係を私とあなただけではなく、どの程度の人々にまでイマジネーションを広げられるかということが問われているのだと思います。

振り返って考えてみると、私達の学校は今までも勉強を評点化することには、あまり興味を示しませんでした。どちらかというと評点化することが難しい教科についての方が得意だったかもしれません。実は意識的に評点化が難しい教科に力を入れてきたつもりです。機織や染色や陶芸や刺繍などを含めた広い意味での工芸、食材の生産から飼育利用をも含めた食育教育としての調理、コミュニケーションツールとしての言語と捉えた語学教育など、どれをとっても評点化がしにくいのかまたは意味がないものばかりだと思っています。

このように本来の勉強は、面白いものであり点数化とは別次元のものです。私達の学園が、得意としてきたものを中心にそのカリキュラムをよりよく精査することは、今社会状況が大きく変化する中で意味があることです。点数化す

ることに集中した、別の言葉で言えば、知識の量で勝負する勉強が行き詰まりをみせ初めていることも、昨今の傾向としてははっきりしてきたと思います。なぜそれが必要だったのかを考えることが忘れられてきた結果だと思っています。

ところで、今世の中ではグローバリゼーションという言葉をよく耳にしますが、このグローバリゼーションという言葉の意味するところは、何でしょうか。本来の意味はもちろん世界化、地球一体化という意味で使われるのですが、最近では必ずしもこのような文脈でいつも使われているわけではなさそうです。小さな政府をと盛んに言われているようですが、人間の歴史は、ある意味では小さな政府か、大きな政府かのせめぎあいの歴史であり、そのバランスの中で賢い方途を選択できた場合と失敗した場合の繰り返しの歴史です。大事なことは、その歴史の中での「今」の位置づけ、マッピングの問題です。現今のように、世界を席捲する勢いでグローバリズムと言われただけで、それはやはりちょっとおかしいと思う知識が必要だと思えます。結果として世界的に貧富の差だけは確実に拡大しています。

端的に言えば、大人の世界を支配している価値観はお金があるかないかだけになってしまった、ということへのなんともいえない苛立ち感が覆い尽くし始めている。翻って子どもの世界での知識の量の点数化のみの価値観に対する苛立

ち感。どうもこれは共通する何かがあるのではないか。単純に一つの価値観だけに絞り込んでしまう圧迫感が、人々を追い詰めているのではないか。そんなことを思わされるようなことばかり続きすぎるのではないのでしょうか。もちろん実際には世の中はそんなことばかり起こっているわけではありません。教育問題が喧しくなると世の中そういうことが多くなっている印象を受けがちだということです。単純化された価値観には抵抗することが大切であるということさえ教えない教育システムが横行している歴史的なパラダイムにいることを忘れてはいけません。

これから暫くの間は、教育カリキュラムがとても大切な時代になると思っています。何を何のために学ぶかは自分で決めるということが問われる時代になったということです。私達の学校も、カリキュラムの精選に精力を注ぎ、生きた学習ができるような、楽しい学校にしたいと思っています。生きることが楽しいと感じられるような授業、よく見て、よく聞いて、よく身体を使い、自分も回りも元気になれる授業に取り組みたいと考えています。

中味のソフトの改革はこれからが正念場です。真の使命は何かを常に謙虚に自省しながら、これからも励みたいと思っています。今後ともどうかご支援のほどよろしくお願いいたします。

